

<令和6年6月定例記者会見>

1 開催日時

令和6年6月5日（水）午前10時30分～午前11時20分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、NHK盛岡放送局、河北新聞社、読売新聞社、岩手日報社

4 発表事項

(1) 溶融スラグの肥料登録と今後の展開（滝沢・雫石環境組合）

このたび、滝沢市に事務局を置く「滝沢・雫石環境組合」は、プラントメーカーである「日鉄エンジニアリング株式会社」、及び同組合のスラグを継続購入している「株式会社エヌジェイ・エコサービス」とともに取り組んできた「溶融スラグの肥料登録」につきまして、5月10日付で正式登録に至ったことをお知らせします。

滝沢・雫石環境組合の施設は、ごみを直接溶かし、スラグ等を資源として取り出す施設として処理を行っており、このスラグは天然砂の代用品として、全量有効活用されてまいりましたが、近年の循環型社会への意識の高まりを受け、さらなる用途の拡大について、前述2社と協力し、実現に向けた検討を続けて参りました。

このたび、農林水産省に対する肥料登録申請が通り、肥料登録証を受領いたしました。今後、買取事業者と協議の上、「扱いやすい製品」への調整を進め、幅広い活用に取り組んでまいりたいと考えております。

(2) バイオマスコークス置換試験の結果について（滝沢・雫石環境組合）

滝沢・雫石環境組合が運営するごみ処理施設は、化石燃料であるコークスを使用するため一定量のCO₂を排出することから、これについて多くのご意見等が寄せられておりましたが、石炭コークス価格が高止まりしていた昨年度（令和5年度）をバイオマスコークス置換(おきかえ)試験の好機ととらえ、平成22年度以来となる試験を、令和6年1月24日から2月4日までに実施致しました。

この試験の結果、かつての試験結果の再現性の確認と、併せて、使用するバイオマスコークスの採用品質基準緩和の可能性を確認し、今後取り組むべき試験の方向性などについて、有効な結果が得られましたことを報告します。

今後も、生産資源等の品質を落とす事無く、埋立物の最大圧縮・破碎残渣のマイクロプラスチックの消滅処理など、溶融炉の強みを最大限に活かしつつ、バイオマスコークスの調達めどがたった場合には、随時試験を行い、CO₂削減にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

(3) 令和6年度チャグチャグ馬コ行事について（観光物産課、市観光物産協会）

本年度のチャグチャグ馬コ大行進を6月8日（土）に開催いたします。

出馬頭数は61頭（昨年は55頭）を予定しており、チャグチャグ馬コ同好会滝沢支部からは装束馬39頭（昨年は34頭）が参加の予定です。鬼越蒼前神社を9時30分に出発し、盛岡八幡宮を目指します。

令和5年度のチャグチャグ馬コでは、22万3千人という過去最高の人出を記録しました。この地域の文化が高く評価されたものと理解しており、多くの注目を集めていることに高く期待しております。

チャグチャグ馬コには、愛馬の無病息災を願う人々の祈りが込められています。現代の街並みと歴史ある馬事文化・愛馬精神が融合する「チャグチャグ馬コ」を、ぜひ多くの方々に見ていただければと思います。

なお、チャグチャグ馬コ大行進を盛り上げるため、滝沢市観光物産協会の主催において、前日の6月7日(金)にはチャグチャグ馬コ写真撮影会が、当日にはビッグルーフ滝沢にてふれあいまつりが開催されます。詳細については、別紙のとおりです。

さらに、ふれあいまつりにおいて、滝沢の日本酒「ばっぱれ」夏の酒、生貯蔵酒300ml入りを税込880円にて販売する予定としております。180本限定販売品であり、チャグチャグ馬コ限定ラベルとなっておりますので、ぜひこの機会に味わっていただけますと幸いです。

また、ふるさと納税の推進及びチャグチャグ馬コの継承を目的とするふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを現在実施中です。6月5日午前8時現在の寄附額は727,000円となっており、達成率は72.7%です。

7月3日(水)までの受付期間となっており、チャグチャグ馬コ大行進当日もふれあいまつりにおいて、クラウドファンディングのブースを出展予定です。人と馬とが一緒に築いてきた風景を後世に残していくため、引き続き皆様の温かい御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(4) 令和6年度岩手山山開きについて(観光物産課)

岩手山山開きを、7月1日(月)に、岩手山の麓に位置する三市町の滝沢市、八幡平市、雫石町で合同開催いたします。岩手山山開きは、登山者と岩手山の一年の安全祈願、そして、三市町の友情交流を目的に合同開催するものです。

当日は朝6時から、本市の馬返し登山口をはじめ、八幡平市の焼走り登山口、雫石町の御神坂(おみさか)登山口にて同時に安全祈願を行い、それぞれのコースを登山します。

その後、正午から三市町が一堂に会して山頂にてピッケル交換を行う予定です。

皆様ぜひ、滝沢市の馬返し登山口までお越しく下さい。今年もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。

(5) たきざわ学び&いきいきセミナーwith盛岡大学・盛岡大学短期大学部について(生涯学習スポーツ課)

滝沢市では、令和6年3月に締結された盛岡大学・盛岡大学短期大学部との包括的連携に関する協定に基づき、誰もが何歳になっても学びなおし、学んだ成果を生かして職場や地域などで更なる活躍を応援するリカレント教育の推進を目指して「たきざわ学び&いきいきセミナーwith盛岡大学・盛岡大学短期大学部」を開催します。

このセミナーは、盛岡大学・盛岡大学短期大学部所属の教職員などを講師とし7月から12月まで5回シリーズで行います。受講料は、すべて無料です。皆様の受講をお待

ちしております。

(6) エネルギー価格高騰対策について（企業振興課、農林課）

社会情勢の変化によりエネルギー価格の高騰が続き、多大な影響を受けている事業者及び農業者等の活動の継続と経営の安定を図るため、費用の一部について給付等により支援するものです。

1つ目は、事業者に対する支援となります。

対象者は、本店所在地が市内若しくは市内に事業所登録がある中小企業者及び市内に住所がある個人事業者のうち、直近の事業年度の営業利益または所得金額が平成31年度から令和4年度の中の任意の事業年度と比較して10%以上減少している者で、約340件を想定しております。

支援内容といたしましては、1中小企業者に対し15万円を給付するものであり、予算額は5,100万円となります。

申請の受付・給付は、滝沢市商工会が窓口となり実施いたします。

2つ目は、農業者・林業者・内水面漁業者に対する支援となります。

対象者は、市内に住所を有しているか、市内に生産を行う場所を有する個人及び法人で、令和5年税申告において販売実績があり、令和6年以降も経営を継続する意思がある者で、約300名を想定しております。

支援内容といたしましては、動力光熱に係る経費の上昇相当額の1/2で、100万円を上限に給付するものであり、予算額は2,850万円となります。

申請の受付・給付は、滝沢市農林課が窓口となり実施いたします。

以上、2事業について実施いたします。2事業ともにすでに開始しており、1つ目の申請期間は令和7月31日、2つ目は令和6年12月27日までとなっております。

エネルギー価格高騰の影響を受けている事業者及び農業者等を広く支援するために、事業の周知及び取材についてよろしくお願いいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：ごみ処理について、今まで2社がスラグを天然砂の代用品として購入したり使ったりしていたということでしょうか。

市長：例えば水道など様々な管の埋め戻し材として、これまでは使ってきました。しかしスラグには肥料成分もあり、釜石でも鉄鋼スラグを酒米の肥料として使っていたと記憶しています。これまで(株)エヌジェイ・エコサービスにスラグの販売をお願いしていましたが、今後は肥料としての販売展開をお願いすることになります。稲のための新しい肥料として活用していただければと思います。年間200トンの販売予定です。

記者：販売は日鉄エンジニアリング(株)がするのですか。

滝沢・雫石環境組合所長：(株)エヌジェイ・エコサービスに販売して、同社が肥料の調整会社と協議したうえで新しい販売をするという形です。

記者：初年度はまず200トンの販売ということですか。

滝沢・雫石環境組合所長：そうです。成分的には生産される1800トンすべてが肥料成分を満たしているのですが、まずは販売量としては200トンが肥料として販売され

る見込みです。

記者：今後は増やしていく見込みですか。

滝沢・雫石環境組合所長：できれば増やしていきたいと思っておりますが、各社の状況によるというところもあり、目途は立っていません。

記者：(株)エヌジェイ・エコサービスはどういった販売先を想定しているのですか。

滝沢・雫石環境組合所長：基本的には(株)エヌジェイ・エコサービスに、市で生産したスラグを全量買い取りしていただいているので、その中から肥料を調整する会社に一部販売します。そして、買い取った会社がほかの成分と合わせた状態の肥料として、新たな商品として販売したいということです。

市長：スラグは細かい砂のようなものですが、ふるいにかけて、品質を高め、使いやすくした状態で販売いただくという形になっています。

記者：スラグはこれまでも(株)エヌジェイ・エコサービスに販売していたということですが、いつからですか。

滝沢・雫石環境組合所長：一時期他社になったことはありますが、平成14年からです。

副市長：溶融炉施設ではスラグとメタルが副産物として出ますので、肥料として有効利用したいというものです。

記者：チャグチャグ馬コについて、馬に乗るのはどういった方になりますか。

観光物産課長：チャグチャグ馬コ同好会という馬主の団体があり、その会員のご家族の子どもたちが馬に乗るのが基本的なスタイルです。行列の際は先頭に役員馬が7頭おり、滝沢、盛岡、矢巾の各首長と議長、競馬組合からも一人で計7名が馬に乗ります。現時点で県知事が乗るという情報は入っていません。

記者：今年ならではの特筆すべき点は何かありますか。

観光物産課長：頭数が増えた点です。昨年は55頭で、文化財に指定されてから最低の頭数となりましたが、今年は6頭増えて、全体のうち7人が初出馬となっています。新たな方がチャレンジしているというのが今年の特筆すべき点かなと思います。

市長：昨年の5月に生まれた市有馬「鈴音」も、昨年はビッグループの係留馬でしたが、今年は歩きます。

記者：頭数が増えた要因というのはどういったことが考えられますか。

観光物産課長：家族の中で孫を乗せたいということで増頭されているところやチャグチャグ馬コ同好会で装束づくり講習会を開催しており、そこに通っている方の中から今回初出馬というケースもあります。

記者：クラウドファンディングについて、先月の記者会見で大きな金額（乗り手になれるなど）の返礼品を用意していたと思っておりますが、応募はありましたか。

観光物産課長：残念ながらありませんでした。

記者：では現在集まっている70万以上の金額は、20万円まではいかない寄附の積み重ねということでしょうか。

観光物産課長：そうです。全国から温かいご支援をいただいております。

経済産業部長：装束づくり講習会やクラウドファンディングなど様々やっておりますが、これまでの活動の中でチャグチャグ馬コの課題なども分かった中で、興味を持っていただいている方が増えてきているので、今回は高額な返礼品には届きませんでした。

継続的に活動し馬コを理解してもらいながら、支援してくれる方がいればありがたいなと思っています。

記者：スラグについてケイカルは含まれているものですか。

滝沢・雫石環境組合所長：一定量は含まれていますが、添加する薬品などによって肥料成分が変わってくるので、肥料化にあたっては先行事例の情報も踏まえながら、どういった調整をしたほうがいいのかプラントメーカーと相談の上、調整しながら運営していきます。

記者：スラグはごみ処理の上で絶対に出てくるものと思いますが、その調整をうまくやってきたことで肥料にも使えるようになったということですか。

滝沢・雫石環境組合所長：そうです。

記者：単純に今までであればスラグは砂の代用として使っていたものを、肥料として卸すようになることで、売る際の値段が上がったりはしますか。

滝沢・雫石環境組合所長：金額が上がるということは想定しておらず、スラグの用途が拡大していくことで需要が増えていくことを期待しており、こういった事例が増えていくことで廃棄物から取り出した肥料成分で、農業がさらに発展していくといった形を作りたいという思いで挑戦してきたものです。

市長：肥料の名前は「たきしづくケイカル」になります。

記者：販売はいつからですか。

滝沢・雫石環境組合所長：出荷が9月頃になる予定です。

記者：プラントメーカーが成分の調整をして、肥料用にするというイメージですか。

滝沢・雫石環境組合所長：プラントメーカーというよりは、操業会社がプラントメーカーから成分の調整などについて指導を受けながら、日鉄エネルギーソリューション(株)という会社が運転上で調整します。調整する薬品の量などについては日鉄エンジニアリング(株)が指示を出すものです。

記者：いきいきセミナーについて、初開催ですか。

市長：そうです。

記者：受講はすべて無料で対象も様々ですが、事前の申し込みは必要ですか。

生涯学習スポーツ課長：会場にもよりますがおよそ50人程度を見込みながら、それを超えても受け入れできる場所を確保していますので、なるべくたくさんの方にご参加いただければと思います。事前申し込みまでは現段階では想定していません。

記者：「ばっばれ」は2合瓶での販売とのことですが、去年も売っていたのですか。

市長：「ばっばれ」は今年初めてのお酒です。紫波酒造で仕込んだお酒で、米はあきたこまちを使っています。馬耕で作った、そういった物語もあるお米で作っています。

記者：このお酒の中身は、ここで買わずとも他のお酒で飲めるものではないですか。

観光物産課長：ここで買わないと飲めないお酒です。

副市長：ビッグルーフの滝沢キッチンで販売開始し、期間中は販売しておりますので、ふれあい祭りの日のみの販売ということではありません。

経済産業部長：本数は180本限定なので、なくなり次第終了という形です。

記者：チャグチャグ馬コについて昨年の人出は22万3千人でしたが、今年はどれくらいを見込んでいますか。

経済産業部長：昨年の人出についても後になって驚いたものですが、天気次第のところもあるので、想定はできていません。

市長：昨年役員場に乗ってみて、ずっと沿道の人が絶えることがなかったので、今年も昨年見た方がもう一度来てほしいなと思っています。

記者：そもそも「スラグ」とはどういった風に説明すればよいでしょうか。

滝沢・雫石環境組合所長：ごみを高温で溶かした際に最後に残るのが「スラグ」と「メタル」です。滝沢の場合はごみを投入して1800度で4時間かけて処理し、最後に残るのが、スラグとメタルの混ざった溶岩のようなものになります。それを細かくして磁石で分け、磁石に付かないスラグのほうを肥料にします。

記者：スラグを肥料にするために動き始めたのはいつごろからですか。

滝沢・雫石環境組合所長：話を始めたのは3年前からです。もともとは買い取り業者から、他事例と同じような工程で処理したスラグには十分な肥料成分があるため、滝沢のプラントでも調整・生産をしてみないかという提案をもらったことが始まりです。以降、農林水産省の指導も受けて調整してきました。

記者：肥料として使うにあたって、どういった作物に適しているのですか。

滝沢・雫石環境組合所長：水田をはじめ、当初の開発試験段階ではワサビなど、主に米ですが、多用途に使われているという話は聞いています。

市長：何年前かに、釜石の炉から出る鉄鋼スラグを浜千鳥などの酒米生産に活用していたと記憶しています。

滝沢・雫石環境組合所長：鉄鋼スラグ自体は60年ほど前から肥料として活用されていたようです。

記者：チャグチャグ馬コについて昨年クラウドファンディングを実施した際、市は馬の維持費などに毎年400万円ほど補助を出していると聞きましたが、今年度の見込みを教えてください。

観光物産課長：昨年はおよそ340万円、クラウドファンディングで支援をいただきました。市有馬にかかる経費やチャグチャグ馬コのイベント経費に充てていますが、その他にチャグチャグ馬コ同好会に対しても現在支援できることがないか調整しているところです。鈴や帯などの消耗品などについて支援できるものがあればと考えています。

市長：ほかのお祭りに馬を派遣するときの経費にも充てていきたいと思っています。輸送費など様々な経費が掛かるので、馬コの宣伝のためにも活用していきたいです。

記者：岩手山の山開きについて、市長は今年も登られますか。

市長：登る予定です。

6 その他記者からの当日質問

記者：ビッグルーフ周辺の開発状況について、どんな状況でしょうか。

市長：民間の開発ですので、正式な連絡をもらっていないため、現状でこれが決まったとは言えない状況です。うまく連携しながらやっていきます。

記者：当初の計画よりも少し遅れている理由があれば教えてください。

市長：工事単価の上昇で、出店するにあたって、発生する経費などさまざまなことを出店者の皆様が考えていらっしゃるのではと思います。

副市長：造成工事や河川の切り回し、市で発注している道路工事については計画通り進んでいます。

記者：何割くらい完了した形でしょうか。

副市長：造成については、おっしゃる通り当初の計画よりは遅れていますが、7年度中の開業を目指すというところは維持しています。

市長：冬に雪が少なかったので、かなり工事は順調に進んでいる状態です。